

令和4年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	被度 (%)	状況
名瀬地区	宮古崎	60%	白化率70% (死滅率0%) 波当たりが強く、ハナヤサイサンゴ属が優占。被覆状のニオウミドリイシや直径20cm程度のミドリイシ属小型群体もみられる。健全なサンゴ群集が保たれているが今年度は夏季の高海水温により全体の70%が白化、死滅群体はみられなかった。被度は昨年度と同様60%に増加。
	宮古崎東	50%	白化率70% (死滅率5%未満) 2007年まで大量発生していたオニヒトデ食害により礁斜面下部のサンゴは壊滅状態だが、礁縁部に直径30～50cmの群体が散見できる。今年度は全体の30%が白化していたが死滅群体はみられなかった。被度は昨年度30%から50%に増加。
	デン浜	80%	白化率70% (死滅率0%) 2007年まで大量発生していたオニヒトデ食害により礁斜面下部のサンゴは壊滅し、浜中央の水路付近に卓状ミドリイシ類が残る。大きいもので直径60～80cmほどに成長している。周辺でも新規加入のサンゴが多くなってきている。被度は昨年度60%から80%に増加。
	知名瀬大浜	70%	白化率80% (死滅率5%未満) 2007年まで大量発生していたオニヒトデにより礁斜面のサンゴは壊滅状態であったが、周辺海域と比較し、新規加入のミドリイシ属が多く、小型群体が散見できる。多い所では1平方メートルあたり10群体以上の群体がみられる。被度は昨年度
	大浜	30%	白化率90% (死滅率5%未満) 礁縁にはミドリイシ属の小型群体が生存し直径30～50cmほどの群体が多い。今年度は全体の90%が白化し5%未満の群体が死滅していた。被度はサンゴの成長により昨年度20%から30%に増加。
	摺子崎	30%	白化率30% (死滅率0%) 2007年まで大量発生していたオニヒトデにより礁斜面のサンゴはほぼ全滅。礁縁にハナヤサイサンゴ属が優占しているが、ミドリイシ属の小型群体も多くみられる。直径20～30cmほどの群体が多い。全体の30%が白化、死滅群体はみられなかった。被度は昨年度25%から30%に増加。
	赤崎	60%	白化率0% 1998年に発生した大規模な白化現象によりサンゴは壊滅。新規加入が少なく回復が遅れていたが、今年度は直径20～50cmの卓状および指状ミドリイシが散見。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度50%から60%に増加。
	名瀬湾立神	60%	白化率5%未満 (死滅率0%) 1997年の台風や1998年の白化現象により卓状ミドリイシ群落は壊滅。2010年から小型群体もまばらにみられるようになってきている。直径は20～50cm程度の指状ミドリイシ属群体が多い。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年
	山羊島	40%	白化率5%未満 (死滅率0%) ハマサンゴ属が優占。大型の塊状ハマサンゴ群体が点在し、枝状のユビエダハマサンゴ群落広がるが、破損部分も多くみられる。ミドリイシ属は僅かにみられる。透視度は10m程度でシルトが堆積。白化群体がごく少数みられた。被度は昨年
	キョンナ	40%	白化率0% 1998年白化現象で壊滅後、2006年に被度10%まで回復してきたが、2007年にオニヒトデにより再び壊滅した。サンゴは急速に回復がみられ、直径20cm～40cmの卓状および指状ミドリイシ属群体が散見できる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様40%。
	有良	30%	白化率0% 98年の白化から回復がみられ始めた2006年に被度15%だったが、2007年に大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばらにみられる。直径10～30cm程度の指状ミドリイシが多い。サンゴの新規加入が少ない。被度は昨年度同様15%から30%に増加。
	芦花部	25%	白化率0% 98年の白化から回復がみられ始めた2006年に被度5%だったが、2007年に大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。直径10～40cm程度のミドリイシ属群体やハナヤサイサンゴがみられる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様15%から25%に増加。
	摺子崎礁池	5%未満	白化率80% (死滅率30%) かつて優占していたコモンサンゴ群落は壊滅し、塊状のハナガササンゴの小群落や、塊状ハマサンゴが点在する。ショウガサンゴの小型群体が散見できたが、ミドリイシ属の新規加入は、ほとんど見られない。白化による死滅群体もみられた。

令和4年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	被度 (%)	状況
協議会	摺子崎礁原	5%	白化率80%(死滅率50%) 卓状ミドリイシ属が優占。2007年まで大量発生したオニヒトデのリーフ内への進入を阻止し、サンゴを保全できた海域。直径50～70cmに成長した卓状ミドリイシや被覆状コモンサンゴ類がみられる。白化により半数は死滅していた。被度は昨年
	大浜礁池	5%未満	白化率90%(死滅率20%) 2017年夏期高水温による白化で90%が白化し2017年11月には、白化により全体の8割が死滅した。その後も死滅は続いた。被度は2017年80%から2018年度5%未満に大幅に減少した。被度は昨年度同様5%未満。
	大浜礁原	30%	白化率90%(死滅率30%) 2007年まで大量発生していたオニヒトデ食害により礁斜面のサンゴはほぼ全滅したが、駆除等により礁原では全滅は免れ、卓状および指状ミドリイシ属が優占。大浜礁池では2017年の白化により9割以上のサンゴ群体が死滅したが、礁原では死滅群体は小数であった。被度は昨年同様30%。
	崎原東	80%	白化率20%(死滅率0%) 卓状のクシハダミドリイシが優占。離礁上部は大型のクシハダミドリイシ群体に覆われている。樹枝状のヤスリミドリイシ大型群体も少数みられる。全体の20%に白化していたが、死滅群体はみられなかった。被度は昨年度同様に80%。
	崎原南	30%	白化率80%(死滅率0%) 2007年にオニヒトデの食害を受けた樹枝状ミドリイシ群落の回復が進んでいたが、2010年10月の奄美豪雨災害、2011年11月の奄美大島南部豪雨による泥土の堆積があり被度は減少。樹枝状のミドリイシ属と塊状ハマサンゴが優占する。全体の80%が白化していたが死滅群体はみられなかった。被度は昨年同様30%。
	仲干瀬崎(小湊南)	80%	白化率5%未満(死滅率0%) 礁縁にはハナヤサイサンゴ群集が一面に広がり、礁斜面上部ではウスエダミドリイシやスゲミドリイシ等のコリンボース状のミドリイシ属小型群体も増加している。潮通しも良く順調に回復してきている。白化群体やオニヒトデ食痕、台風による破損もみられなかった。被度は昨年度同様80%。
住用地区	高浜東	60%	白化率70%。死滅率0%。 礁縁上部に卓状ミドリイシ属の大型群体が広がる。直径2m以上のクシハダミドリイシや直径1m以上のコユビミドリイシの大型群体がみられる。全体の70%に色が薄くなる程度の白化がみられたが、死滅群体はなかった。被度は昨年度同様60%。
	高浜	60%	白化率80%。死滅率0%。 礁縁部に直径40～60cmの指状および卓状ミドリイシ群体指状ミドリイシ属群体がみられる。全体の80%に色が薄くなる程度の白化が見られたが、死滅群体はなかった。被度は昨年度同様60%。
	鳩ノ崎	10%	白化率50%。死滅率0%。 礁原上にはハマサンゴ、キクメイシ類、ショウガサンゴの小型群体が点在し、海底に大型ハマサンゴ群体が点在する。礁原上の群体は80%が白化していたが、死滅群体はみられず、ハマサンゴでは白化群体はみられなかった。新規加入のサンゴは少ない。被度は昨年度同様で10%程度。
	スタートビラ	40%	白化率80%。死滅率0%。 湾奥小滝からスタートビラに続く小規模なサンゴ礁。礁縁にコユビミドリイシやクシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシの群体がみられる。全体の80%に色が薄くなる程度の白化がみられたが、死滅群体はなかった。被度は昨年度同様40%。
	トビラ	10%	白化率5%未満。死滅率0%。 2010年奄美豪雨災害により海底やサンゴ群体上に泥土が堆積し70%が白化うち約半数が死滅し、生サンゴ被度は30%から10%に減少。2011年の北部豪雨では影響は軽微であったが、2011年11月2日の南部豪雨後には、再び泥土が堆積し白化群体がみられた。2015年梅雨時期に土砂の流出が発生し10cm程度の泥土の堆積みられたが、大部分は台風により洗い流された。2017年夏期の高海水温によると思われる白化群体が散見、白化率は50%で被度は2016年10%から5%未満に減少。今年度はトビラ島側のサンゴ群集周辺の海底には泥土の堆積はみられなかった。被度は昨年度同様10%程度であった。
	和瀬	30%	白化率80%。死滅率0%。 2013年に白化や台風で被度は40%から30%へ減少し、2014年度は台風による破損により被度が低下、2016年は大型の塊状ハマサンゴも白化し部分死滅した。2017年はハナヤサイサンゴ類や樹枝状ミドリイシ群落が白化。2020年8月に樹枝状ミドリイシ群体が部分白化した。今年度は全体の80%に色が薄くなる程度の白化がみられたが死滅はなく、被度は昨年度20%

令和4年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	被度(%)	状況
笠利地区	赤木名	30%	白化率0% 赤木名港地先の塊状ハマサンゴ群落。ハマサンゴが優先し、群種全体の9割以上を占める。その他はキクメイシ属やハナガササンゴ属の群体が点在。ウスエダミドリイシ群体も少数みられる。被度は昨年度20%から30%に増加。
	前肥田	70%	白化率0% ユビエダハマサンゴ群落が2016年の部分白化により死滅した。今年度は白化はなく、被度は昨年度同様に30%から70%に
	赤木名立神	50%	白化率0% 一昨年度はハナヤサイサンゴ群体は殆どが白化、ミドリイシ類も色が薄い軽度の白化群体が多く見られた。1998年にサンゴの白化現象によってサンゴは壊滅したが、2009年から小型群体が散見できるようになった。被度は昨年度同様に50%。
	蒲生崎入口	15%	白化なし。オオウミキノコやバラウネタケ等、ウミサカ科のソフトコーラル類が優占。直径10～20cmのミドリイシ属やキクメイシ科の小型群体も散見できる。種の多様性は高い。生サンゴ被度は昨年度10%から15%に増加。
	蒲生崎	15%	白化率0% 蒲生崎周辺でサンゴの小型群体が多い海域。直径20～30cm程度の指状ミドリイシ属の小型群体が散見できる。オヤユビミドリイシやコユビミドリイシ、ハナヤサイサンゴが多い。台風による破損等で被度は昨年同様30%から15%に減少。
	佐仁	70%	白化率0% 笠利半島西海岸においてサンゴの回復が特に順調な海域。直径50～60cmに成長した指状ミドリイシ属群体もみられる。波当たりが強く、被覆状のニオウミドリイシも多い。礁斜面では樹枝状のアオサンゴ小群落が点在している。サンゴ被度は昨
	用海岸	70%	白化率10%(死滅率0%) 笠利半島東海岸においてサンゴの回復が特に良好な海域。卓状および枝状のミドリイシ属の小型群体が多くみられる。南側の縁脚には卓状のクシハダミドリイシ、ウスエダミドリイシ群体、北側の縁脚には樹枝状のアオサンゴ小群落が点在。種多様性も高い。被度は昨年度60%から70%に増加。
	あやまる岬	60%	白化率30%(死滅率0%) 礁斜面がほぼ垂直に落ち込む地形で、礁縁に卓状ミドリイシがみられる。直径40～60cmほどのクシハダミドリイシやコユビミドリイシが多い。太枝状のヤスリミドリイシもみられる。被度は昨年同様50%から60%に増加。
	明神崎	70%	白化率90%(死滅率0%) 波当たりが強い礁縁にハナヤサイサンゴ科の群落が広がる。スゲミドリイシ、コユビミドリイシなどの小型群体も散見できる。水路部には直径1mほどの卓状ミドリイシ類もみられる。ほとんどのサンゴは白化していたが死滅群体はみられなかった。被度は昨年度同様に70%。
	用安	10%	白化率90%(死滅率30%) 水路北側の礁縁。直径20cmほどの指状ミドリイシ類の小型群体が多い。直径1mほどのクシハダミドリイシもみられる。新規加入のミドリイシ属のサンゴはやや少ない。被度は昨年度同様に10%。
	節田	70%	白化率80%(死滅率10%) 礁縁から礁斜面にかけて、クシハダミドリイシ、コユビミドリイシを中心に卓状ミドリイシ群落が広がる。直径1.5mほどの大型群体もみられる。新規加入のミドリイシ類も多い。2017年の白化により樹枝状ミドリイシ群体の上部に部分死滅が見られたがその後回復がみられた。被度は昨年度50%から70%に増加。
	神の子	75%	白化率80%(死滅率5%未満) 礁池内に広がる枝状のトゲエダコモンサンゴや葉状のチヂミウスコモンサンゴ群落。2019年は群落の80%が色が薄くなる軽度の白化が見られたが、白化による死滅は確認できなかった。被度は昨年度同様に75%。

令和4年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	被度(%)	状況
大和村	今里沖	15%	白化率50%(死亡率0%)。色が薄くなる程度の白化群体が全体の50%程度で死滅群体はみられなかった。2004年前後のオニヒトデの大発生によりサンゴは壊滅したが、その後定着があり、ハナヤサイサンゴやミドリイシ属の小型群体がみられる。新規加入のサンゴが少ない状態が続いている。被度は昨年度同様に15%。
	今里小浜	25%	白化率80%(死亡率5%未満) コユビミドリイシ等のミドリイシ属小型群体が成長してきている。卓状ミドリイシ小型群体も少数みられる。サンゴ岩表面は付着藻類に覆われ、サンゴの新規加入は少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度と同様
	志戸勘コモリ	20%	白化率80%(死亡率5%未満) 礁原上にある直径約50m、水深約10mのすりばち状の窪み(コモリ)。浅所のヤツデアナサンゴモドキがほぼ全て白化し約半数が死滅、深所のミドリイシ群落は白化はみられなかった。フトエダミドリイシやMontipora mactanensisなど、周辺海域にあまりみられない種も生存する。被度は昨年度同様20%程度。
	志戸勘礁池	10%	白化率90%(死滅率5%未満) コモリから陸側に広がる礁池では、樹枝状ミドリイシの小型群体も多くみられ、数メートルに広がる群落も点在している。直径30cm程度のウスエダミドリイシ等もみられる。2017年、2018年の白化により被度は減少した。今年度は90%が白化していた。被度は昨年度同様に10%。
	名音沖	80%	白化率30%(死亡率0%) 直径20~60cm程度のミドリイシ属の卓状群体が散見できる。卓状のクシハダミドリイシが優占し、コユビミドリイシやオヤユビミドリイシ等のコリンボース状の群体も多い。被度は昨年度同様70%から80%に増加。国直海域、毛陣海域と併せてオニヒトデ駆除海域(保全海域)に選定すべきである。
	名音隧道	80%	白化率50%(死滅率0%) 2005~2006年のオニヒトデ大量発生によりサンゴは壊滅し、その後回復がみられ、クシハダミドリイシやコユビミドリイシ、オヤユビミドリイシが多い。全体の50%が白化していたが死滅群体はみられなかった。被度は昨年度60%から80%に増加。
	ヒエン浜中央	10%	白化率90%(死滅率10%) クシハダミドリイシやヤスリミドリイシ、オヤユビミドリイシ等のミドリイシ属の直径1m程度の大型群体が少数みられるが、新規加入のミドリイシは少ない。2005~2006年のオニヒトデ大量発生したが、集中的な駆除により全滅は免れている。全体の90%が白化しうち10%が死滅していた。被度は昨年同様10%。
	ヒエン浜戸円側	25%	白化率80%(死滅率0%) クシハダミドリイシやヤスリミドリイシ等のミドリイシ属の大型群体が少数みられる。ミドリイシ属の小型群体も散見できるが、加入数は少ない。2005~2006年のオニヒトデ大量発生したが、集中的な駆除により全滅は免れている。被度は昨年度20%から25%に増加
	ヒエン浜礁地	5%未満	今年度は海況不良により未調査 (昨年度) 礁縁では、半球状のリウキュウノウサンゴが散見できる。指状ミドリイシ属の小型群体が少数みられるが、礁池では塊状ハマサンゴが少数みられる程度で、サンゴの加入がほとんどない状態。被度は5%未満。
	大山崎西浜	20%	白化率70%(死滅率10%) 直径10~20cm程度の指状ミドリイシ属やハナヤサイサンゴの小型群体がみられる。卓状ミドリイシの小型群体やキクメイシ科の小型群体もみられる。全体の70%が白化し、うち10%が死滅していた。被度は昨年度15%から20%に増加。
	トルス	20%	白化率30%(死滅率0%) 直径10~30cmのコユビミドリイシやクシハダミドリイシ等のミドリイシ属群体が優占する。ハナヤサイサンゴも散見。全体の30%が白化していたが死滅群体はみられなかった。被度は昨年度同様に20%。
	マッコ	30%	白化率30%(死滅率0%) 直径10~20cm程度のコユビミドリイシやオヤユビミドリイシ等の指状ミドリイシ属小型群体が散見できる。潮通しもよくサンゴ群体は概ね健全な状態であるが、全体の30%が白化していた。死滅群体はみられなかった。被度は昨年度同様30%。
石川	30%	白化率30%(死滅率0%) ハナヤサイサンゴや指状ミドリイシ属の小型群体がみられる。新規加入は少ない状態が続いている。死滅した大型卓状ミドリイシ群落の骨格が残る。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度20%から30%に増加。	

令和4年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	被度 (%)	状況
協議会	親川	40%	白化率40%(死滅率0%) 直径20～50cm程度の指状および卓状ミドリイシ属の群体や、ハナヤサイサンゴが見られる。礁原にはリュウキュウノウサンゴ群落広がる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同等に40%。
	宮古崎	60%	白化率50%(死滅率5%未満) 直径20～50cm程度の指状および卓状のミドリイシ属群体が多い。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。卓状ミドリイシの成長により、被度は昨年度同様60%。
	国直北	90%	白化率70%(死滅率5%未満) 国直集落北側の砂浜前面に広がるサンゴ礁。1998年のサンゴの白化現象によりサンゴは壊滅し、2010年度から小型群体が多くみられるようになり、被度はH23年度5%、H24年度10%、H25年度20%、H26年度50%、H27年度70%、H29年度80%、R3年度85%と増加した。今年度は90%と微増した。
	国直	80%	白化率30%(死滅率5%未満) 1998年のサンゴの白化現象によりサンゴは壊滅し2010年度からミドリイシ属の小型群体が散見できるようになった。被度はH23年度5%、H24年度10%、H25年度20%、H26年度40%、H26年度50%、H27年度60%、H28年度70%、H29年度80%と増加した。今年度も昨年度同様80%。
	毛陣礁池	60%	白化率90%(死滅率5%未満) 急激に落ち込む礁斜面の被度は60%。礁池内は、直径60～100cmのクシハダミドリイシやコユビミドリイシ等の卓状ミドリイシ類が優占する。樹枝状のトグスギミドリイシ大型群体も散見できる。被度は昨年度同様60%。
	親川南	70%	白化率90%(死滅率0%) 2010年の奄美豪雨災害により調査地点「親川」から約500m南東で大規模な崩落があり、土砂の流出や海底への泥土の堆積がみられ、崩落現場から100m以内では約半数のサンゴ群体に白化や死滅がみられた。その後サンゴは回復が進んでいる。今年度は全体の90%が白化。被度は昨年度と同じ70%。
宇検村	曾津高崎東	80%	クシハダミドリイシ、コユビミドリイシなどの大型の卓状ミドリイシ群体が一面に広がっており、直径1m以上の大型群体も多くみられる。サンゴ幼生の供給源としても、周辺海域の回復を促す重要なサンゴ群集である。新規加入のミドリイシ属も多い。サンゴの白化の発生はみられなかった。被度は昨年度70%から80%に増加した。
	外浜	60%	礁縁では被度が高くなり、クシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシ大型群体もみられる。30cm程度の小型ミドリイシ群体も散見できる水路部でも部分的に卓状ミドリイシが高被度でみられる。白化やオニヒトデ食痕はみられない。被度は昨年度70%から60%に減少した。
	屋鈍崎	80%	2000年のオニヒトデ大量発生によってサンゴが壊滅した地点。礁斜面上部に、直径40～50cm程度のコユビミドリイシやオヤユビミドリイシ等の指状ミドリイシ群体や直径60～100cmのクシハダミドリイシ等の卓状群体が多い。樹枝状ミドリイシ群体も散見できる。白化やオニヒトデ食痕も見られない。昨年度70%から80%に増加した。
	屋鈍	50%	2000年のオニヒトデ大量発生によってサンゴが壊滅した地点。直径30～50cm程度の指状および卓状ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシ群体が散見できる。白化やオニヒトデ食痕はみられない。破損群体が少数みられた。被度は昨年同様50%。
	タエン崎	80%	2000年のオニヒトデ大量発生によってサンゴが壊滅した地点。直径30～50cmのコリンボース状および直径1m以上の大型卓状ミドリイシ属のサンゴ群体が散見できる。浅所では樹枝状ミドリイシ小群落がみられる。白化やオニヒトデ食痕は見られない。被度は70%から80%に増加した。
	タエン	80%	2018年にハナヤサイサンゴ類やモモンサンゴ類、アザミサンゴ類、卓状および樹枝状ミドリイシ属群体に白化が見られたが、死滅群体は少数であった。クシハダミドリイシ等の大型ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシの小群落もみられる。被度はクシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシ属が優占する。珊瑚土の大型群体も多くみられ、コユビミドリイシ、オヤユビミドリイシも多い。新規加入のミドリイシ属のサンゴも多い。オニヒトデ食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が広がっている。被度は昨年度同様60%。
	枝手久島北	60%	直径20～40cm程度のコリンボース状ミドリイシ小型群体が散見できる。コユビミドリイシやオヤユビミドリイシが多い。ハナヤサイサンゴも散見できる。白化やオニヒトデ食痕はみられなかった。付着藻類が多く新規加入のサンゴは少ない。被度は昨年度50%から60%に増加した。
	倉木崎	60%	直径20～40cm程度のコリンボース状ミドリイシ小型群体が散見できる。コユビミドリイシやオヤユビミドリイシが多い。ハナヤサイサンゴも散見できる。白化やオニヒトデ食痕はみられなかった。付着藻類が多く新規加入のサンゴは少ない。被度は昨年度50%から60%に増加した。
	船越海岸	80%	クシハダミドリイシ等の大型卓状ミドリイシ属が優占する。コユビミドリイシ、オヤユビミドリイシも多くみられる。新規加入のミドリイシ属のサンゴも多い。オニヒトデ食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が広がっている。良好な環境が保たれている。被度は昨年度と同じ80%。

令和4年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	被度 (%)	状況
龍郷町	嘉渡	20%	コユビミドリイシ等の指状ミドリイシ属の小型群体がみられる。パラウネタケ等のソフトコーラルが優占する。白化群体多少あり。被度は20%に増加。
	円	20%	コユビミドリイシ等の指状ミドリイシ属の小型群体がみられる。主体的にソフトコーラルが優占する。白化群体多少あり。被度は20%に増加。
	今井崎	35%	ソフトコーラル、ハードコーラルともに変化無く健全な状態。波当たりが強くニオウミドリイシ等もみられる。白化群体多少あり。被度は35%に増加。
	ハナゴイ	40%	パラオハマサンゴ、ユビエダハマサンゴ、コブハマサンゴ群落が進化する。ミドリイシ群体は少ない。オニヒトデの食害無し、白化群体は多少あり。被度は昨年同様40%。
	赤尾木	30%	砂地にハマサンゴが多く点在。ミドリイシ属群体も昨年度と変化なし。白化群体多少あり。被度は昨年同様30%
	白浦	25%	コブハマサンゴは健全。樹枝状ミドリイシ属群体が多少増加。オニヒトデ食痕や白化群体ほぼ無し。被度は昨年同様25%。
	戸口アーチ	25%	ミドリイシ属群体は少ない。ハマサンゴ、ソフトコーラルが優占。夏の高水温での白化群体が見られる。被度は昨年同様
	戸口アウン	20%	ハマサンゴ、ソフトコーラルが優占。指状のミドリイシ属小型群体がまばらにみられる。高水温での白化で死滅群体が見られる。被度は昨年同様20%に減少。
	ウマズバマ	20%	オオウミキノコやパラウネタ等のソフトコーラルが優占。半球状サザナミサンゴ科群体や被覆状コモンサンゴ属群体がみられる。夏の高水温での白化により死滅群体が見られる。被度20%に減少。
	戸口落水	25%	卓状のクシハダミドリイシ大型群体も少数みられる。直径30cm程度の指状ミドリイシ属が多い。夏の高水温での白化群体が見られるが、被度は昨年同様25%。
	久場	20%	水深3mのコユビエダハマサンゴは死滅状態。水深10mを越えるとリュウモンサンゴ群落、エダセンペイサンゴ群落が広がる。湾奥の工事の影響と推測され20%減少。
倉崎	25%	塊状ハマサンゴ優占。直径60cm程度の卓状ミドリイシ群体も増加傾向だが夏の高水温で白化も見られる。被度は昨年同	
瀬戸内町	安脚場	65%	前年度と比べると、被度の変化はなかった。
	黒崎	30%	前年度と比べると、被度が増加した。
	実久	70%	前年度と比べると、被度が増加した。
	デリキョンマ岬	35%	前年度と比べると、被度が増加した。東側はサンゴの再生が遅れている。
喜界町	花良治	60%以上	漁網が絡んでいる箇所あり、白化の群体少ない、クシハダミドリイシも健全に成長
	塩道	55%以上～60%未満	ソフトコーラルが多く、若干白化しているも全体的に健全
	荒木	55%以上～60%未満	ハマサンゴ多く、白化したものはみられなかった
徳之島町	畦	50～74%	オニヒトデによる被食部があった。
	母間	50～74%	多少食痕が確認された。
	畦	50～74%	多少の白化が確認された。
	母間	50～74%	多少の食痕が確認された。
	畦	50～74%	食痕と白化の両方が見られた。
	母間	50～74%	多少の白化、弱白化が見られた。
	畦	50～74%	多少の白化、食痕が見られた。
	母間	50～74%	食痕、白化、弱白化が見られた。
	畦	50～74%	多少の食痕が見られたがひどくはない程度。
	母間	50～74%	食痕、白化、弱白化が見られた。
天城町	与名間漁港西沖	30%	新たな白化が多く見られたが食痕はほぼなし
	与名間灯台下	30%	新たな白化も見られたが既存のサンゴは健全である
	与名間ビーチ沖	30%	黒く死滅のサンゴが見られるも新規加入も見られる
	千間南沖	40%	サンゴは健全に保たれており新規加入も多く見られる
伊仙町	喜念	50～74%	多少白化現象あり、生育良好。
	喜念(コバンシャ)	50～74%	多少白化現象あり、シコロサンゴ等生育良好。
	面縄	50～74%	ハマサンゴ等、発育良好。
	検福	50～74%	食害・白化現象が多少あったが、ウスコモンサンゴ等発育良好。

令和4年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	被度(%)	状況
和泊町	西原	10%~25%	良好。
	出花	10%~25%	良好。
	ワンジョ	10%~25%	良好。
	イダシチ	10%~25%	台風後に崩れたサンゴが見られたが、食害及び白化もなく良好。
知名町	沖泊り沖	25%以上50%未満	レイシ貝による食害が多い
	屋子母	0~24%	白化や食害によるサンゴ礁の減少が見られる
	ウジジ浜沖	0~24%	白化現象が少ない
与論町	長崎沖(長崎の塔)	26.3	やや不良
	赤崎沖(礁斜面)	31.0	やや不良
	赤崎沖(礁池内)	20.0	不良
	皆田沖(礁池内)	28.8	やや不良
	茶花沖(ニュードロップ)	50.0	良
	茶花沖(宮殿東)	65.0	良